

令和元年度第2回教育研究評議会議事録

日 時 令和元年5月22日(水) 14:30～15:50 TV会議
場 所 事務局5階大会議室、S-P o r t 3階会議室
出席者 石井、木村、東郷、手島、寺村、小谷、河合、笹原、白井、日詰、田島、
江口尚、熊倉、近藤、小西、田中、北村、川田、喜多、森田、鳥山、江口昌、
原、三村、朴、澤田の各評議員
欠席者 丹沢委員
陪席者 村松監事、藤井、宮原の各学長補佐

I 前回議事録の承認について

2019（平成31）年度第1回教育研究評議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 新法人設立・大学再編について

議長から、新法人設立・大学再編について、資料1により、第8回静岡大学・浜松医科大学連携協議会等の以下の報告があった。

- ・法人本部の設置場所について、全県での存在感、法人機能の効率化やスペース等を考慮した場合、静岡キャンパスに置くのがよいとの考えは変わっていないことを伝え、浜医大からは、マインドの問題もあるので少し時間をいただきたいとの回答があった。
- ・設置審等の手続き的に一番簡略であるのは、静岡大学から情報学部と工学部を減らして、浜松医科大学に2学部を増やして、浜松医科大学の名称変更するという形であることは両大学として共有しているが、浜医大からは、コストや手間を考えれば反対することはないが、静大の情報学部や工学部側のマインドの問題が気になるとの意見があり、マインドの問題は若干あるとは思いますが、それよりも大学名称がより重要であり、文科省との話でも体を表す名称でなければならないので、一般的な名称にするか浜松の部局構成を反映した名称にしなければならないと発言し、今後も検討することとした。新大学の名称については、浜松キャンパスの部局長連絡会でも議論したが、連携協議会の場や浜松地区の意向を聞きながら決めていきたい。
- ・浜医大から、浜松市より600平米程度の浜松駅周辺にあるビルの1階スペースを新大学設置の準備室として無償貸出の申し出があったとの紹介があり、スペースの現場確認等を明日予定している（法人本部ではなくサテライトスペースとして利用）。
- ・両法人を廃止して新法人を設立するか、一方の法人を廃止して残した法人の名称を変更し、それに寄せるのか意見交換を行い、浜医大から、静岡大学に寄せることはマインドの問題として若干抵抗があると思うので、上記の2つの変更についての手続きやコスト等について情報提供をいただき、学内での今後の議論の参考にしたいとの発言があった。富山大学の時は、3つの法人をすべて廃止し、新法人を設立したこともあるが、文科省からはどちらかの法人を残した方がよいのではないかと示唆を受けている。
- ・連携協議会は月1回程度の開催になるが、両学長と両局長との打合せを行い、迅速に

作業を進めていきたい。

- ・スケジュールについては、文科省と調整し、6月の企画戦略会議で示し、学内的な作業のイメージを共有したい。

2 静岡大学プロジェクト研究所規則の制定等について

木村委員から、静岡大学プロジェクト研究所規則の制定等について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

3 静岡大学における研究活動上の不正行為に関する取扱規則の一部改正等について

木村委員から、静岡大学における研究活動上の不正行為に関する取扱規則の一部改正等について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 総合科学技術研究科農学専攻の改組について

森田委員から、総合科学技術研究科農学専攻の改組について、資料4により提案があり、審議の結果、これを承認した。

<議事に関連して委員から出された意見等>

- ・日詰委員から、名古屋大学と岐阜大学が法人統合した後の岐阜大学大学院連合農学研究科の取扱いについて質問があり、森田委員から、統合後も引き続き存続する予定であると聞いていること、また、議長から、法人統合後も、当面の間、教育・研究組織は現状のままであるため、経営方針の中で俎上に上った場合には本学にも影響してくると思うとの発言があった。

5 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

河合委員から、平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について、資料5により説明があり、改めてメールにより確認依頼を行うため、意見、修正等があれば指摘いただきたいとの発言があった。

また、議長から、本件は次回の本会議で議論し、6月28日に文科省に提出する予定であるため、6月初旬を目途にご意見をいただきたいとの発言があった。

6 トロワ工科大学（フランス）との大学間交流協定の締結について

白井委員から、トロワ工科大学（フランス）との大学間交流協定の締結について、資料6により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

7 ブラウンシュバイク工科大学（ドイツ）との大学間交流協定の更新について

白井委員から、ブラウンシュバイク工科大学（ドイツ）との大学間交流協定の更新について、資料7により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

8 学生の懲戒処分について

寺村委員から、学生の懲戒処分について、別添資料により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、笹原委員から、貧困学生に対して、どのように対応するのか全学として

議論が必要であるとの発言があり、意見交換を行った。

<議事に関連して委員から出された意見等>

- ・議長から、目に見えない貧困を見つけ出す体制を各部局や学生委員会等で議論していただきたいとの発言があった。
- ・寺村委員から、政府等で貧困世帯に対する支援制度が少しずつ検討されているが、奨学金が家庭の生活費として使用されるなど、本来の趣旨と違った使い方をしているケースもあると聞いているため、調査等を行い、大学として対応していく必要があるとの発言があった。
- ・小谷委員から、学生寮の建替えについては安く入居できる部分が廃止されると聞いているため、何らかの形で維持することも検討いただきたいとの発言があり、議長から、学生寮については学生に対する調査を行い、そういう要求は少なかったと聞いている。学生寮の見直しで、今の金額として一部残すことは難しいため、別の形での支援を検討したいとの発言があった。
- ・村松監事から、様々な制度があるが、今回の件は、相談窓口に繋がらなかったのが大きいと思うので、可能であれば、具体的に何かできることがあったのか無いのか検証し、その後部局で検討いただいた方がよいのではないかと発言があり、議長から、当該部局では、窮状が把握できなかったことについて、どういったことをしていればよかったのか検証していただき、また、他の部局では、改善策等、意見があれば全学会議で提案いただき共有していきたいとの発言があった。

Ⅲ 報告事項

1 令和元年度第2回企画戦略会議（令和元年5月8日）報告

議長から、令和元年度第2回企画戦略会議(令和元年5月8日)について、資料8により報告があった。

2 2019年春の叙勲について

議長から、2019年春の叙勲について、資料9により名誉教授3名の受章の報告があった。

また、岳陵会の海野徹会長（元参議院議員）の旭日中綬章の受章について報告があった。

3 学部・研究科等（現況分析単位）の学系部会への分類について

河合委員から、令和2年度に実施される第3期中期目標期間における教育研究の状況についての評価に係る学部・研究科等（現況分析単位）の学系部会への分類について、資料10により報告があった。

以上